59年5月1日（火曜日）

SAKだより

神奈川県スキー連盟
横浜市神奈川区台町16－1
ソレイユ台町 407号室
電話 045（311）8907
発行者：清水清則
編集：中野善次郎

蔵王国体で好成績

関・池田・榎並が14位
岡本も17位と健闘

第39回国民体育大会冬期大会

●会期 昭和59年2月23日～26日
●会場 山形県山形市蔵王

今年の国体は、山形県蔵王スキー場にて二月二十三日より二十六日迄開催されました。

本県はアルペンが二十名、ノルディックが十一名の計三十一名に役員十四名の合計四十五名で参加してきました。大会前の三日間を合宿に当て、現地で練習しました。

毎年、風邪等で体調の良くない選手が出ていましたが、今年は全員コンディションは最高でした。

宿舎も申し分なく快適でしたが、残念だったのは温泉が引いてない事で蔵王自慢の温泉にはとうとう入浴出来ずに帰ってきました。

大会期間中は天候に恵まれ選手諸君も思い切りレースが出来たと思います。特にアルペン陣はシードが悪いのにもかかわらず、後方のスタートから良い成績で来年が期待されます。タイム的には、スタート順が良ければ入賞可能な選手が数名おり残念であるとともに次期大会が楽しみです。当県の選手のレベルも毎年確実に雪有県に近づいております。

ピック大会で、普段の実力を出せる精神力も良い成績のための大きな要素となります。期待されながら実力を出し切れない選手も今年はおりました。試合慣れの不足をカバーすることも考えなくてはと思いました。

全般的には、運営のしっかりとした良い競技会でした。只、困ったのは合宿期間中のリフト代が高いことでした。来年は高いリフト代が無駄にならない成績が出るように、このオフは強化に徹してみたいと思っております。

この夏は、期待される選手には無理と思われる位の負荷をかけたトレーニングをつませ、県民の期待に来年こそこたえたいと思っております。各協会、クラブの代表者の皆さん是非御協力をお願いいたします。

佐々木 峻

成績

――アルペン競技――

〔成年女子一部〕
関 由枝（ド・ネージュ） 14位
井上玲子（日本女子体大） DF

〔成年女子二部〕
池田美幸（スポーツマン） 14位
伏屋真澄（スポーツマン） 28位

〔成年男子三部〕
岡本数英（国鉄中原） 17位
深見和男（スポーツマン） 33位
高橋謙吉（アルペン） 38位

〔成年男子二部〕
大滝久雄（キャタピラ三菱） 34位
山根 功（キャタピラ三菱） 41位
宗田敏元（ユーベル） DF

〔成年男子一部〕
榎並雪彦（明治大学） 14位
小関典久（専修大学） 36位
伊藤明成（ユーベル） 56位
羽賀 清（横浜スキー） 69位

〔少年男子〕
三枝 修（横浜高） 41位
安藤一秀（法政二高） 57位
岡田英男（法政二高） 98位
阿部一彦（法政二高） 103位
塚脇 誠（ユーベル） 125位
雲英顕一（法政二高） DF

――ノルディック競技――

〔成年女子一部・5km〕
豊田美津子（横浜スキー） 31位
久米香織（東芝スキー） 44位

〔成年男子一部・15km〕
倍賞耕二（東芝スキー） 69位
山本和正（国鉄大船） 88位
土井口辰也（東芝スキー） 93位
細矢 実（東芝スキー） 98位

〔成年男子二部・15km〕
酒田勝利（カメ） 41位
柏木正彦（国鉄大船） 51位
岩村 茂（東芝スキー） 56位

〔成年男子三部・15km〕
北川松男（横浜スキー） 31位
勝又敬夫（日産車体） 35位

〔成年男子リレー・8km〕
神奈川県スキー連盟（倍賞、柏木、酒田、山本、土井口） 23位

執行をかえりみて
――組織の和と仲間意識――

理事長
清水清則

昭和五十八年度は豪雪に見舞われ雪の心配はなかったが、多過ぎて行事運営に当って参加された皆さんにご迷惑をかけた点もありました。又行事参加の皆さんもいろいろ苦労があったことと思います。雪が少くても、多くても、苦労があるものですね。ともあれ本年度行事が予定通り無事終了できましたことは、執行に当られた役員をはじめ参加された皆様方のご協力の賜物と厚く御礼申し上げます。

理事長に就任して早くも二年が過ぎました。就任当時は、あれも、これも、といろいろ考えましたが、現在の県連で何が必要であるか、一番必要なものから手懸けて行くことにしました。

県連も会員数が増え組織が大きくなればなるほど、その運営に当っては、近代的な手法によらなければならないことは云うまでもないことで、近年県連に於ては近代化に向けて先輩諸氏が非常な努力をして参りました。ようやくその基盤が出来上り他県連に誇り得る立派なものとなりました。しかし、移り変る時代に対応して行くには常に研究努力が必要で、現在引き続き規約規程委員会が開催され、時代に即した組織運営のあり方について研究を重ね、よりよい組織運営を求め努力しております。近年このような状況が続き、ともすれば、組織の和と仲間意識が忘れ勝になる昨今です。現在の県連に不足しているものは、この点ではないでしょうか。組織人としての原点についてみんなで考えて見る必要があると思い、今期の執行方針に組織の和と人間性の向上を掲げ努力して参りましたが、一所懸命やった割合に、これと云ったことも出来ずに終ってしまった様な気がします。それは目標が大きく、一年や二年で達成出来るものではありません。執行部の努力は勿論、組織の全員がその気になって実行に移して始めて成し遂げられるものと思います。今期は先づ県連執行に当る者の気構えを整えることから始め、執行に当っては、片時もこのことを忘れることなく機会ある度に実行に移して参りましたが、具体的に示せるものが少く、皆さんには分かり難いものであったと思いますが初期の目的は達し得たものと思います。内容的には、少しでも多くの会員の皆さんに接し、多くの意見を聞くことから始まり、相互によく理解を深めることをモットーに執行部が積極的に地区に飛び出す機会をつくり出しました。又県連行事と併行して多くの方々が親睦を図れる機会をつくる等微力ではありますが努力して参りました。

幸いなことに、今期間中に指導員各位の協力によりまして、神奈川県スキー指導員会が組織も新しく再出発し活動を開始しました。執行部でなし得ない部分をカバーしていただき、よりよい県連づくりに互に努力したいと考えます。

会員一人一人主義主張は異っていても、スキーを通じて結ばれた県連で、志することは皆同じはずです。常に雪上にある時の気持をもって、親しみのある県連づくりのため皆さんのご理解とご協力をお願いいたします。

Kazamacup
第一回カザマカップスーパージャイアントスラローム選手権大会

蒼空の中にノコギリの刃を立てたように切り立つ戸隠連峰が白くまばゆい一月の戸隠スキー場は、例年とはうって変わって豊富な雪に包まれている。

樹氷が美しい戸隠スキー場の頂上、瑪瑙山からお仙水コースをへて第4リフト乗り場際までの全長二〇〇〇m標高差三〇〇mを一気に滑降するスーパージャイアントスラローム、滑降競技の高速ターンと長いコースに加えプレジャンプ台が設けられ本格的なコースが作られた。

ヘルメットとレーシングスーツに身を包んで次々とゴール選手たちは、初めて体験したこのスーパーGSLのダイゴミに満足した息づかいがゴールテントの中にも伝わって来る。戸隠スキー学校で新たに導入された最新式の電子計時は一〇〇〇分の一秒までタイムがすぐさま表示される。ゴールした選手は熱い視線を注ぎ自分のタイムに歓声を上げる。

この企画に際して、㈱カザマスキーからの絶大なる協力とご理解を得て実現することができた。

なお、多くの賞品の提供をいただき閉会式も一層盛り上がった。

成績

●カザマカップ

〔成年女子〕
一位 高木由美子（S・C カメ） 二分〇〇秒七〇
二位 石川葉仁（逗子スキー）
三位 池田美幸（スポーツマン）

〔成年男子〕
一位 小笠原明（ユーベル） 一分五一秒九五
二位 伊藤明成（ユーベル）
三位 浦島秀明（日本鋼管京浜）

〔少年の部〕
一位 蔦原 真（高体連） 二分〇一秒五三
二位 三枝 真
三位 安藤一秀

協会だより

楽しかった歩くスキー

相模原スキー協会
副理事長　山崎七郎

三月二〇日、春分の日だというのに朝から吹雪となるあいにくの天候、降り続く雪を窓越しにうらめしくながめながらの朝食。

九時、貸スキーを履いてゲレンデに集合。雪の中で開会式が始まる。

初めて履いた細長いスキーで、よちよち歩きの子供のように馴れない足つきで雪上を動きまわる。

講習会は、多忙な中を駆けつけてくれた、嵐・小川両コーチの指導のもとで一時間ほど行われる。幾分かは滑走することができるようになりコースへと飛び出して行った。

前日に、まえもって作っておいた全長四キロに及ぶコースは、山あり谷ありとはいかないまでも、木立の間を通りぬけ、静寂な自然と対話しながら歩いてゆく、天候に恵まれたならば、戸隠連峰の雄々しき姿を目の前にながめ、白樺の林を吹き抜ける心地よい風を肌で感じながら歩けただろうに、しかし今日は、そんな景色は見えないが、何もたよらず自然の中を自分の中で歩くこのスキーのすばらしさを、みな感じとることができたに違いない。

馴れないスキーと雪との苦労の後に楽しい催しがあった。

朝から設営班の手によって作られた大きななべの中に、どっさりと煮込まれている特製のとん汁。

寒い中での、あのあったかいとん汁の味は、どんな名料理家が作っても、あのうまさにはかなわないだろう。普段はおしとやかな女性たちも、三杯ものおかわりをして皆を笑わせたり、そんな和気あいあいの中で、楽しくまだ寒い戸隠の初春を満喫した。

さて、歩くスキー大会が催されるにあたっての話をする。

相模原スキー協会創立30周年を記念した雪上行事として、何かを企画しようではないかという話が持ち上ったのは昨年の春のこと、計画にあたっては、皆が楽しめる事、社会のニーズに答えることを主題とした。生涯スポーツの一端を担うスキースポーツが置かれている状況の変化は、あまりにも派手な方向に向き過ぎている。このようなスキー界を考えて見た時に、近年再認識され始めてきた「歩くスキー」が適当ではないかという話となった。

相模原は、がんらいノルデック王国とまで言われ、毎年行なわれているクラブ対抗継走競技では、20チームの出場があるなどや、国体にも多くの選手を出場させるなどの歴史を持つことを考えて見たとき、これが最良の企画だという事で計画し実現の運びとなった。

今日は、あまりにも機械文明に押し流され、ゆとりのない社会生活と自然と親しむ機会が少ない。そういう日々の中で、自然の中に思う存分身を投げ出せるこの行事を恒久的な雪上行事として続けていきたいものだ。

「歩くスキー大会」は吹雪の春分の日、戸隠高原にその第一回を刻んだことを報告します。

実況中継

第6回小田原スキー協会

こちらは薄曇りの車山高原！前夜の雪でゲレンデは最高のコンディションです。もうすぐ午前九時、スタートの予定時刻ですが、何名かの選手達が、インスペクションを行っています。

ゴールテントの中には協会役員のなごやかな顔も見えます。

五十嵐副会長、昨夜の開会式はいかがでした？

「今朝着、昨夜遅く着いた選手が多い為、エントリー百九十名近い選手の三分の一程度の出席でした。しかし、早朝からスタート出来るのは車山高原ならではのメリットですね。」

コース整備や、ポールセットは大変だったのではありませんか？

前日の午前中練習をして午後に選手・役員が協力して行ないました。セッターは藤原校長に行なってもらいました。車山高原に会場を移して三年目になりますが、毎年、天候と雪には恵まれ、参加者も年々増えています。それまでの御殿場スキー場に比べ設備は抜群に良いですし、特に今年は、現地の協力体制が整っていて有難いですね。」

ジュリとセッターが軽く滑って来ました。

鈴木副会長コースはいかがでした？

「大変すばらしいです。全長七百M、旗門数二十三、標高差百八十Mの大回転。一本勝負ですから、途中引掛ける3人が多く出そうですね。」

電子計時の音がテントの中から聞こえてきました。前走がスタート。ゴールからスタート付近がよく見えるのはいいですね

こちらスタート、テントの周りは出走順の早い女子、五部の選手達、その周辺を他の選手やサポートが取り囲み、和やかな雰囲気になっております。ここから見るとスタート直後の急斜面で、女子選手が次々と転倒しています。旗門員は各クラブ分担ですから、転倒者を励まして走らせるなど、実に和気あいあいに行なっております。

残念ですが時間になってしまいました。なお、総合優勝は、アールベルグでした。

裏ばなし

鎌倉スキー協会
田代　光弘

現在、鎌倉ではメイン行事として、十二月暮れからのジュニアスキー教室（バス五台）、一月下旬か二月上旬の市民スキー教室（二台）、三月下旬のファミリースキー（四台）、である。

年度のスキー活動報告よりも、実際にスキーに行くまで、スキー指導する前の苦労話をしてみましょう。

一つの行事を行なうについて約七、八回の会議が行なわれるが、マンションの会議室や市の体育館などを利用させてもらっている。市民スキー教室を除いて他のジュニア・ファミリスキーは協会が行事の企画・募集その他色々な事をするわけである。募集要項は市の公報に記載させてもらい、理事長宅を受付本部として往復はがきで申し込んでもらう。

SAKだよりと同じように市の公報を見る人も少ないと思うが、常連が約半分以上占めている。

申し込みのはがきには、氏名・住所・貸スキーを希望する人は身長、足のサイズを書きこんでもらっている。返信用には受付番号を記入して送り返しているわけである。

理事長の奥さんは、受付・返信・電話の応対などにおわれ、シーズン中は家を開けることも出来ず、本当に感謝しております。

一枚のはがきに友人五、六人の住所と名前が書かれている。これくらいはまだいい、ひどいのは――さんと一緒にしてくれ、又、バスは一緒、室は別などと書かれている。これがわれわれが一番苦労するバス割、室割に役立つわけであるが、友人を見つけるのが一苦労、あげくの果てはその友人が申し込みをしていなかったり、バス五台ともなれば二日間ぐらいバス、室割にかかってしまう。これでもいざ出発する時に〝しおり〟を見て、友人と別れてしまった。友人が来ているから一緒にしてほしいなどとバスの前から動かない人もいる。参加者の希望を一つでも取り入れようと、スキー場に向うバスの中や、現地に着いてからの修正は毎回のようである。

貸スキーや貸靴などは手分けして行なうのだが、足が入らない、臑が当って痛いなどとさまざま、厚い靴下を二、三枚履いている人もいる。靴だけは後で生徒も先生も苦労するから念入りに合わせるようにしている。

などと色々苦労はあるけれど、参加者の希望を一つでも取り入れる努力をすれば、来年も又参加して貰えるのではないかと思っており、スキー発展の為に鎌倉では頑張っております。

「下手の一心」
―正指検定報告

小田原スキー協会
高原　照夫

「おめでとう」と言われても、手放しで有難うとは言えない。

「ええまあなんとか」「これからが大変です」こんな言葉を低く、しかし心の中で噛みしめながら呟くのである。

スキーを始めたのが遅い、土曜は休みではない、運動センス筋力等は人並かそれ以下。三重苦である。加えて金がない。

まだ私の方がマシだ、という方の方が多いくらいではあるまいか。そういう人間が正指を受験し、ともかくも合格した、ということが、同じような条件の中で苦しんでいる多くの仲間の刺激になったら、よろこばしい。

具体的に何をしたか簡潔に追ってみると、まず、覚悟を決めた。8月～11月はかなり悩んだ。クラブ、協会、県連の恥ではないか、と、そこそこに陸トレをしながらも揺れ動いていた。

筆記試験の勉強は、手につかなかった。必死にやったのは2月に入ってからである。もっともこれは私が、そういう追いこみタイプだからで、コツコツ型の人は勿論早く始めた方がよいに決っている。

雪上練習は、やった。職場に断って、一月から土曜は全部休むことにした。たまたま今年に限ってそれが可能だったからで、これをはずすと、もう4～5年は巡ってきそうもないチャンスだった。

まず、後傾、横ズレの悪癖を治すため、ジャンプターン、大まわりターンだけに自分のすべりを絞った。ウェーデルンは2月になってからやればよいと決めて、良い位置にのること、シュプールを細くしてキレるターンにすることだけを心がけた。

上手な方にはどんどん迫って、教えを乞うた。松浦、柴田、野地、片、倉金、鶴淵の各先生をはじめ諸先輩にアドバイスをいただいた。皆さん、多分あまりに下手な私に驚かれたと思うが、2月の中旬、協会蔵王スキーで、松浦、青木両先生の指導を受けたあと、準指受験者と三人で半日、ロングコースをずっとパラとジャンプターンですべりにすべり、何かつかめた気がした。

やるだけのことはやった、と心が静まり、覚悟が決まったのはその後のことである。

受検会場の宿舎とりは、受検者同志連絡をとりあい、横浜の遠又さんがすばらしい交渉力を発揮して、最も条件のよい本部宿舎を確保して下さった。この件に限らず受検者同志の協力体制は、心強いものである。

検定会は総じて天候に恵まれた。極上の雪質とすいたゲレンデも有難かった。よい点がとれないのは実力相応だろうが、残念である。

あだたら会場に限って言えば、私よりずっと上手なのに落ちた方もいる。それらを含んで、一層の研鑽に努めなければ「正指です」などとは言えない。

「名を恥ずかしめないよう一層努力します」と、心の中で噛みしめながら、関係各位に厚く御礼申し上げ、報告としたい。

「平塚スキー選手権大会」
―自主運営のなごやかさ手づくり大会

平塚スキー協会会長　小林敬二

平塚スキー選手権大会は、まさに自主運営そのものです。例年一月下旬の土・日曜日に戸隠高原スキー場で開催し、本年度でちょうど10回目を数えました。

この大会は、昭和48年の県総体スキー競技会で、和久井氏（現、県連副会長）を中心としたアルペン選手、勝又氏（現、平塚協会副理事長）を中心としたノルディック選手の両輪の活躍で県総体10年目にして、横浜、川崎の大都市をしのぎ総合優勝を獲得したことが契機となり、その翌年の49年に県総体選手選考会の性格をもたせて第一回が開かれました。

最初の頃は、青木湖スキー場で何回か行ないましたが、その後、戸隠が県連の推奨ゲレンデになりましたので、これの恩恵を十分受けて戸隠に定着した次第です。また、宿泊所はこれも県連指定宿舎の「和田山荘」であり、ここの御主人さんにも大きく御協力をいただいております。

（県連に感謝します。）

参加者は、例年50人前後ですが多いときには70数名のときもあります。ただ、女子の参加が少ないのが残念……。経費については、大会参加料千五百円、その他貸切りバス、宿泊等で一万五千円程度で行なっております。

開会式は、平塚市立見附台体育館で行い、市教育委員会体育課長さんの激励などを受け、バスに乗り込み、和気あいあいのうちに夜行、まさに呉越同舟であります。

参加区分（年齢・性別など）は、女子、壮年（35歳以上）、成年A（30～34歳）、同B（21歳以下）の4区分で、種目はアルペンが回転、大回転、ノルディックが、距離競技で行なっています。表彰は、個人選手権、クラブ対抗及び最優秀選手賞の三つの賞を与えております。

さて、運営ですが、まさに手づくりと自主運営そのものです。ポールセット（ときには、戸隠スキー学校に協力してもらうこともあります。）や距離競技のコースづくり、旗門員やスターター、計時、記録などみんな選手が交替で「きびしく」「なごやか」に行なっています。今年は、例年になく積雪が多く、村の圧雪車の協力を得ました。推奨ゲレンデの恩恵大であります。例年ですと、参加選手が、自主的に壺足等によりゲレンデ整備を行なっており、まさしく、手づくりの大会であると思っております。

宿舎では、ミーティングに話題もひろがり、技術論、クラブ同志の作戦など適度にアルコールもまわり、まさになごやかムード、小さい協会の特徴でありましょう。

これに携わる協会役員（殆ど選手兼）は10名程度、現在まで事故者がないのも幸いであります。

正指導員検定合格者

阿部　佳郎（伊勢原）	湘南スキー
高原　照夫（小田原）	神奈川雪友
山口　利雄（小田原）	神奈川雪友
大渕　泰蔵（相模原）	相模ハーモニー
小林　善雄（横浜）	横浜市役所
大川　広志（相模原）	雪友
細川　直行（平塚）	平塚
茂木三四郎（横浜）	横浜市役所
江並　一已（横浜）	ファルケン
松本　伴之（横浜）	シーフェル
佐藤　仁志（相模原）	相模ハーモニー
小野　泰（川崎）	神奈川若葉
平賀　淳夫（川崎）	川崎
原田　実（川崎）	リーベン

強化部

○第6回神奈川県民体育大会 第39回国体スキー競技会神奈川県選考会

――アルペン競技――

会期　昭和59年1月21日～22日
会場　長野県戸隠スキー場
豊富な雪に恵まれた戸隠スキー場で繰り広げられた国体選手選考会は大回転を二日間で競う形式で開催された。各選手とも接近したタイムとなり実力にものいわせる大会となった。

○全日本選考会（大回転の部）
〔女子二部〕
一位　池田美幸（スポーツマン）　一分一六秒四七
二位　伏屋真澄（スポーツマン）
三位　松岡雅子（川崎スキー）
〔女子一部〕
一位　井上玲子（日本女子体育大）　一分一二秒七三
二位　関　由枝（ド・ネージュ）
三位　四手井晶子（横浜教職員）
〔男子三部〕
一位　岡本数英（国鉄中原電車区）　一分〇九秒九七
二位　高橋謙吉（横浜アルペン）
三位　深見和男（スポーツマン）
〔男子二部〕
一位　宗田敏之（ユーベル）　一分〇九秒五〇
二位　篠原竹美（神奈川県警）
三位　大滝久雄（キャタピラ三菱）
〔男子一部〕
一位　榎並雪彦（明治大学）　一分〇三秒四五
二位　小関典久（専修大学）
三位　小笠原明（ユーベル）
〔少年の部〕
一位　安藤一秀（高体連）　一分〇五秒三二
二位　三枝　修（高体連）
三位　雲英顕一（高体連）

○県民大会兼国体選考会（大回転の部）
〔女子二部〕
一位　池田美幸（スポーツマン）　一分二二秒二八
二位　伏屋真澄（スポーツマン）
三位　丸山禮子（川崎スキー）
〔女子一部〕
一位　関　由枝（ド・ネージュ）　一分一五秒七六
二位　井上玲子（日本女子体育大）
三位　石川葉仁（逗子スキー）
〔男子三部〕
一位　深見和男（スポーツマン）　一分一三秒三〇
二位　田中邦規（横浜スキー）
三位　高橋兼吉（横浜アルペン）
〔男子二部〕
一位　篠村竹美（神奈川県警）　一分一三秒〇九
二位　大滝久雄（キャタピラ三菱）
三位　井上茂則（シルバースパーク）
〔男子一部〕
一位　榎並雪彦（明治大学）　一分〇六秒五八
二位　小関典久（専修大学）
三位　島山　央（専修大学）
〔少年の部〕
一位　三枝　修（高体連）　一分一二秒三四
二位　安藤一秀（高体連）
三位　塚脇　誠（ユーベル）

――ノルディック――

会期　昭和59年1月22日
会場　群馬県片品高原スキー場
〔女子5K〕
一位　豊田美津子（横浜スキー）　二九分一〇秒五四
二位　久米香織（東芝スキー）
〔少年15K〕
一位　小島孝義（ユーベル）　一時間四一分一三秒二九
〔男子三部15K〕
一位　北川松男（横浜スキー）　一時間〇一秒一四分四五
二位　滝谷勝男（日電玉川）
三位　勝又敬夫（日産車体）
〔男子二部15K〕
一位　菊地日出夫（横浜スキー）　五四分四二秒九四
二位　柏木正彦（国鉄大船）
三位　酒田勝則（SCカメ）
〔男子一部15K〕
一位　吉岡庸雄（横浜スキー）　一時間〇〇分四七秒七二
二位　倍賞耕二（東芝スキー）
三位　山本和正（国鉄大船）

●第2回小賀坂杯スラローム大会 ●第41回神奈川県選手権大会

昨年に引き続き、今年も上越国際スキー場で開催された。
コースコンディションも良く、さらに地元の手馴れた運営で、スムーズに競技が実施され、小賀坂スキーからは小賀坂杯と副賞の数々を提供いただいた。なお、最優秀選手には、岡本数英選手（国鉄中原）が選ばれた。

会期　昭和59年3月9日～10日
会場　上越国際スキー場

○小賀坂杯スラローム大会・回転
〔女子二部〕
一位　松岡雅子（川崎スキー）　一分四九秒五七
二位　伏屋真澄（スポーツマン）
〔女子一部〕
一位　真家紀子（シルバースパーク）　二分一五秒八六
〔成年男子四部〕
一位　大原伸悦（横浜アルペン）　一分四三秒〇九
二位　小林俊夫（横浜スキー）
三位　福沢洋治（スキー同好会）
〔成年男子三部〕
一位　岡本数英（国鉄中原電車区）　一分三五秒五〇
二位　深見和男（スポーツマン）
三位　田中邦規（横浜スキー）
〔成年男子二部〕
一位　山根　功（キャタピラ三菱）　一分三七秒五四
二位　大滝久雄（キャタピラ三菱）
三位　上村隆二（日産車体）
〔成年男子一部〕
一位　羽賀　清（横浜スキー）　一分三六秒四九
二位　若旅健二（横浜スキー）
三位　浦島秀明（鋼管京浜）
〔少年の部〕
一位　三枝　修（高体連）　一分三六秒八〇
二位　三井伸介（横浜スキー）
三位　阿部一彦（高体連）

○県選手権大会
――アルペン・大回転――
〔女子二部〕
一位　池田美幸（スポーツマン）　一分三八秒四三
二位　松岡雅子（川崎スキー）
三位　伏屋真澄（スポーツマン）
〔女子一部〕
一位　真家紀子（シルバースパーク）　一分四六秒一三
二位　須山理枝（日電玉川）
〔男子四部〕
一位　前田惣一（クロイツラー）　一分三八秒〇四
二位　小林俊夫（横浜スキー）
三位　松岡洪太（横浜スキー）　一分三〇秒一〇
〔男子三部〕
一位　関根広美（横浜スキー）
二位　戸沢真美（秦雪）
三位　深見和男（スポーツマン）
〔男子二部〕
一位　水野浩二（日産車体）　一分二九秒二七
二位　井上茂則（シルバースパーク）
三位　川口典夫（横浜スキー）
〔男子一部〕
一位　羽賀　清（横浜スキー）　一分二六秒三〇
二位　加山明人（高体連）
三位　佐藤寿夫（日電玉川）
〔少年〕
一位　塚脇　誠（ユーベル）
二位　鈴木信吉（高体連）
三位　安藤一秀（高体連）

――ノルディック――

〔女子5K〕
一位　豊田美津子（横浜スキー）　一四分一四秒
二位　久米香織（東芝スキー）
〔男子三部　15K〕
一位　北川松男（横浜スキー）　三八分四五秒
二位　滝谷勝雄（日電玉川）
三位　勝又敬夫（日産車体）
〔男子二部　15K〕
一位　柏木正彦（国鉄大船）　三七分一六秒
二位　岩村　茂（東芝スキー）
三位　藤木　豊（日産車体）
〔男子一部　15K〕
一位　倍賞耕二（東芝スキー）　三六分〇三秒
二位　吉岡庸男（横浜スキー）
三位　山本和正（国鉄大船）

○回転競技
〔女子〕
一位　北野淑子（関西スラローム）　一分五二秒四八
二位　浪江奈津代（スポーツマン）
〔男子四部〕
一位　前田惣一（クロイツラー）　一分二一秒四一
二位　松村光雄（ファルケン）
三位　福沢洋治（横浜同好会）
〔男子三部〕
一位　戸沢真美（秦雪）　一分二五秒六〇
二位　吉田春雄（日立神奈川）
三位　高橋謙吉（横浜アルペン）
〔男子二部〕
一位　水野浩二（日産車体）　一分二七秒六九
二位　今井昌則（富士フィルム）
三位　松原　章（ヴィヴァント）
〔男子一部〕
一位　水野浩二（日産車体）　一分二九秒二七
二位　井上茂則（シルバースパーク）
三位　川口典夫（横浜スキー）
〔男子一部〕
一位　羽賀　清（横浜スキー）　一分二六秒三〇
二位　加山明人（高体連）
三位　佐藤寿夫（日電玉川）
〔少年〕
一位　塚脇　誠（ユーベル）
二位　鈴木信吉（高体連）
三位　安藤一秀（高体連）
――ノルディック――
〔女子5K〕
一位　豊田美津子（横浜スキー）　一四分一四秒
二位　久米香織（東芝スキー）
〔男子三部　15K〕
一位　北川松男（横浜スキー）　三八分四五秒
二位　滝谷勝雄（日電玉川）
三位　勝又敬夫（日産車体）
〔男子二部　15K〕
一位　柏木正彦（国鉄大船）　三七分一六秒
二位　岩村　茂（東芝スキー）
三位　藤木　豊（日産車体）
〔男子一部　15K〕
一位　倍賞耕二（東芝スキー）　三六分〇三秒
二位　吉岡庸男（横浜スキー）
三位　山本和正（国鉄大船）

●第4回美津濃杯

春のきざしの見えた八方尾根スキー場、四月初旬としては豊富な積のリーゼンコースで行なわれる。FIS会場に使用され充分に整備されたバーンにセットされた回転競技の旗門を押しのけて滑走する選手たち、最後の県連主催大会を満喫している。
二日目の大回転競技は、高速ターンを要求する旗門セットの中で行なわれる。前半のガスは除々に晴れて競技会も熱気が最高頂に達する。大会の全面協賛をいただいた美津濃株式会社から入賞選手にトロフィー・メダルそして豪華な賞品が授与され参加者の拍手が八方の山口にこだまする。

期日　昭和58年3月31日～4月1日
会場　八方尾根スキー場

普及部

第5回全日本 基礎スキー選手権大会

期日　昭和59年3月9日～11日
会場　青森県大鰐温泉スキー場

（男子）
堀　裕樹（横浜　シーフェル）　55位
大渕泰蔵（相模原相模ハーモニー）　76位
田場川博（川崎）　84位
東海林延友（藤沢　バイスバイム）　108位
鶴渕　裕（小田原　エリア）　116位
松本伴之（横浜　シーフェル）　120位
高木雅寛（相模原　相模ハーモニー）　139位

（女子）
佐々木泉（茅ヶ崎　茅ヶ崎スキー）　13位
本多　忍（横浜　横浜市役所）　32位
関　由枝（横浜　ド・ネージュ）　33位

全日本選考会（女子）
佐々木泉（茅ヶ崎　茅ヶ崎スキー）　6位
〔男子三部〕
一位　吉田春雄（日立神奈川）　一分三七秒七六
二位　高橋謙吉（横浜アルペン）
三位　鈴木洋介（ウルルスキー）
〔男子二部〕
一位　大滝久雄（キャタピラ三菱）　一分三三秒七六
二位　山根　功（キャタピラ三菱）
三位　柏木　勉（日産車体）
〔男子一部〕
一位　伊藤明成（ユーベル）　一分三二秒四七
二位　高橋公樹（慶応大学）
三位　江部広治（富士通）
〔少年〕
一位　黒屋善行（ユーベル）　一分四四秒八一
二位　三井康介（横浜スキー）
三位　山口崇男（ユーベル）
〔男子二部〕
一位　伊藤明成（ユーベル）　一分二九秒八三
二位　新穂浩士（関東学院大）
二位　江部浩治（富士通）
〔少年〕
一位　塚脇　誠（ユーベル）　一分三六秒四八
二位　三枝　真（シルバースパーク）
三位　山口崇男（ユーベル）
○大回転競技
〔女子〕
一位　井上玲子（日本女子体育大）　一分三六秒八五
二位　北野淑子（関西スラローム）
三位　浪江奈津子（スポーツマン）
〔男子五部〕
一位　前田惣一（クロイツラー）　一分四〇秒四〇
二位　小林俊夫（横浜スキー）
三位　松村光雄（ファルケン）

●準指導員検定会

昭和58年度準指導員検定会は、戸隠スキー場でまずまずの天候の中で実施された。
合格者には、今後も自己研さんを重ね、真の指導者をめざして頑張っていただきたい。なお、今回残念ながら不合格であった方も、あきらめず、再度挑戦していただきたい。

会期　59年2月17日～19日
会場　戸隠高原スキー場

〔合格者一覧〕（順不同）
（横浜）
中本昭二　近島慶典　谷川考一
大島康志　鈴木武徳　木下健司
大水清志　西　威男　五十殿順次
高橋　勉　兼子　思　馬淵ひろみ
玉木幸裕　原　勇三　舟久保勝男
渡辺光夫　熊谷　高　村山政幸
高橋和男　清水満夫　渋谷文男
新田春彦　犀川一郎　加藤あけみ
関口雅子　奥野　隆　笠井　章
大井智子　右田泰子　渡辺明彦
中沢康夫　平野喜信　花坂雅之
中川和久　沼田　勉　奥澤みゆき
高橋義英　小島恭之　友実かおり
北隅賢一　高橋　悟　早川みどり
関　由枝
（川崎）
佐藤史郎　梅本　修　藤田忠男
山口志郎　若松徳彦　波田野耕七
永峰雄二　阿部一三　藤田まゆみ
（相模原）
岡本秀明　森　公一　千葉絵理子
七山聖学　金子　満　軽部佐代子
永井正己　篠崎正義　後藤雄考
（小田原）
足立久夫
（厚木）
上村　久
（横須賀）
奈良智弘
（平塚）
前川憲之
（茅ヶ崎）
中原和弘
（鎌倉）
小谷　誠

第2回全関東 基礎スキー選手権大会

期日　昭和59年3月18日～20日
会場　長野県東山高原スキー場

（一般男子）
東海林延友（藤沢　バイスバイム）　2位
義達治良（大和　大和スキー）　6位
細川弘幸（大和　大和スキー）　7位
倉金郁夫（相模原　相模ハーモニー）　8位
（女子）
三浦禎子（小田原　小田原雪原）　4位
友実かおり（横浜）　5位

第16回神奈川県 デモンストレーター選考会

期日　昭和59年2月4日～5日
会場　小田急石打スキー場

昭和58年度SAK デモンストレーター認定者
鶴渕　裕（小田原　エリア）
松本伴之（横浜　シーフェル）
堀　裕樹（横浜　シーフェル）
及川城司（横浜　横浜クロイツラー）
東海林延友（藤沢　バイスバイム）
高木雅寛（相模原　相模ハーモニー）
田場川博（川崎　国鉄中原電車区）
細川弘幸（大和　大和スキー同好会）
大渕泰蔵（相模原　相模ハーモニー）
二階堂治紀（川崎　リーベン）
原田　実（川崎　リーベン）
藤田謙一（横浜　クラブ・ド・ネイジュ）
村田正隆（横浜　クラブ・ド・ネイジュ）
義達治良（大和　大和スキー同好会）
畠山裕一（横浜　横浜クロイツラー）

第3回ロシニョール杯争奪 オール神奈川スキーヤーズ大会

会期　昭和59年2月26日
会場　上越国際スキー場

競技指向派、基礎指向派を問わず神奈川のスキーヤーが集うことを目標に企画して3回目を数えるこの大会は、年ごとに各会員に滲透し参加者も定着する兆しが見えてきたようだ。

特に今大会では、オールドパワーの部へ多数の参加があり、なごやかかつにぎやかに進行するなど、本企画の主旨でもある会員相互の親睦もなお一層深めることのできた大会となった。

（オールドパワー女子）
一位　福山和江（古い帽子の会）　一分一四秒八三
二位　丸山禮子（川崎スキー）
（指導員の部　女子）
一位　大橋由子（雪朋）　一分一二秒二二
二位　加藤紀美子（教職同好会）
三位　井戸ゆりえ（スノーメイツ）
（競技選手の部　女子）
一位　四手井晶子（教職同好会）　一分〇九秒五七
二位　永久利奈子（川崎スキー）
三位　浪江奈津子（スポーツマン）
（一般の部　女子）
一位　真家紀子（シルバースパーク）　一分一五秒四七
二位　飯田恵子（昭和石油）
三位　沢地美幸（日立神奈川）
（オールドパワー　男子二部）
一位　松浦益司郎（神奈川雪友）　一分一六秒二九
二位　小林俊輔（バイスバウム）
三位　清永清則（横浜市役所）
（オールドパワー　男子一部）
一位　榎本賀一（川崎スキー）　一分一〇秒四四
二位　和久井氏雄（平塚スキー）
三位　角田高一（相雪）
（指導員の部　男子五組）
一位　山崎七郎（SCカメ）　一分一一秒〇三
二位　田村由郎（スノーメイツ）
三位　亀田　衛（川崎スキー）
（指導員の部　男子四組）
一位　前田惣一（クロイツラー）　一分〇六秒五五
二位　福沢洋治（横浜同好会）
三位　松村光雄（ファルケン）
（指導員の部　男子三組）
一位　戸沢真美（秦雪）　一分〇三秒四四
二位　吉田春雄（日立神奈川）
三位　中野善次郎（ファルケン）
（指導員の部　男子二組）
一位　山本英雄（SCカメ）　一分〇三秒六九
二位　三塚洋治（相雪）
三位　井上文男（東芝スキー）
（指導員の部　男子一組）
一位　井　千歳（SCカメ）　一分〇二秒三七
二位　桐生　武（大和同好会）
三位　工藤幸弘（大和同好会）
（競技選手の部　男子三組）
一位　小林俊夫（横浜スキー）　一分〇三秒五六
二位　山本　穣（てんぐ）
三位　丹羽一夫（横浜スキー）
（競技選手の部　男子二組）
一位　田中邦則（横浜スキー）　一分〇〇秒〇八
二位　永久仁久（川崎スキー）
三位　関根広美（横浜スキー）
（競技選手の部　男子一組）
一位　竹節伸一（慶応大学）　五九秒一四
二位　浦島秀明（日鋼京浜）
三位　上村隆二（日産車体）
（一般の部　男子三組）
一位　山田喜一郎（川崎スキー）　一分〇二秒三七
二位　宮田　満（バイスバウム）
三位　野口俊行（一般）
（一般の部　男子二組）
一位　日下部健一（一般）　一分〇六秒三一
二位　有路政幸（日立戸塚）
三位　福沢博昭（昭和石油）
（一般の部　男子一組）
一位　小林成年（一般）　一分〇二秒〇三
二位　林　洋一（山手スキー）
三位　森　康博（ヴィヴァント）
（少年の部）
一位　木村誠一郎（秦雪）　一分〇九秒六六
二位　細谷達夫（ヴィヴァント）
三位　徳田　智（大和スキー）

○黒川杯

指導員の部で最高タイムの者に授与される黒川杯は、第一回から当大会まで他の者を寄せ附けずに井千歳選手の手に渡りV3の達成となる。

シャ◎ウター

黄色いスタッフヤッケに身を包み、トランシーバーとスコップを持って黙々と大会コースの凸凹を削り整備する。大会の前日から会場となるバーンを上がったり下がったり、重たくなったラピットポールの束を肩に一本一本セットするヒゲ面の男に気付いた人は数少ない。大会で一回滑るために出場する選手たちがみんな好成績をあげられるようにとバーンの状態に神経を注ぎ削られたコースの修復に奔走する。

〔菊地富士夫〕SAK強化コーチ
群馬県水上に生まれ、神奈川県の国体選手として少年の部の時代から出場し活躍する。
昭和58年度の「あかぎ国体」を最後に選手生活を引退、後継者の育成に努める当スキー連盟の若手の強化コーチとして活躍している。

ゴルフコンペ

春期大会

神奈川県スキー連盟親睦ゴルフコンペを次の日程で開催しますので多数の参加を（先着順）お待ちします。

日　時　昭和59年6月7日（木）
場　所　平塚富士見カントリー
募集人員　50名（先着順）
大会方式　過去3回の成績によりハンディを計算し初参加の場合は、ゲスト抵いで申告とする。
連絡者　平塚スキー協会　副会長　和久井民雄　〇四六三―二二―二五六二

各部から一言

総務部

鈴木　克美

ここ数年来の登録団体増加の傾向は、本年度も六クラブの新規加入を得るなど、さらに県連組織の充実強化と底辺の拡大化の目的に向って着実に歩みを進めています。これも一重に各地区協会を初めとする各地域の会員皆様の日頃の御協力の成果とお礼申し上げます。

また本年度は、前年度に引続き各地区協会の協力体制のもとで、広報委員会及び規約規程委員会も活発に活動を行うなど県連組織をあげての運営の基盤作りも進みました。

さらにまた、本年度からはこれまで県下一括して開催していた協会クラブ実務担当者及び代表者会議を各地区において協会主導により開催し、協会・クラブと県連執行部との一層のコミュニケーションを図ることができました。

この結果、本年度はこれまでとかくトラブルが多く、県連事務処理上の大きなネックともなっていた口座振込等クラブ員の各種手続きもほとんど正確に行っていただける様になり県連事務処理の円滑化が図られました。

本年度もあと残りわずかとなりましたが、5月上旬においては本年度の県連の執行に対する会員の皆様の生の御意見を伺い、またそれを新年度の執行に反映させるため各地区において協会・クラブ代表者会議を計画しています。

ぜひ全クラブの方々が御出席いただき県連執行に対する積極的な御意見をお寄せいただけるようお願いいたします。

普及部

柴田　伸彦

入学式、桜前線到来、結婚式と、町はどこも紺と黒のスーツにあふれている。今年はことのほか残雪が多く、われわれスキーヤーにとってはうれしいかぎりである。

この残雪期には、行事に追われていたシーズンを振り返って、春スキー計画といきたいものだが…。昨今、競技スキーと基礎スキーの接点という話題があちこちで聞かれるが、両者のスキーは一体化していると思える。ワールドカップのレーサーも、全日本基礎スキー選手権大会の出場選手も、目ざす技術は、いかにバランスよく、いかにスピードに乗って走らすことができるか、この問題にすべての選手が全神経を傾けることでわかる。

今年もいろいろありました。基礎スキー公認検定員の制度化、検定規定の改定、ジュニアテストの新設等々、おかげさまでつつがなく消化できました。

まだまだ各地とも春スキーが楽しめます。怪我のないよう春スキーを満喫し来シーズンに備えて滑りこんで下さい。

強化部

佐々木　峻

降雪の心配をしたシーズンが続きましたがようやく思い切りレースの開催されたシーズンでした。

昨シーズン迄の完全自主運営から半自主運営の状態となりましたがそれでもコース整備等では御協力をいただきありがとうございました。今シーズンは特にカザマカップGS1のレースが出来たことが今後のレベルアップに役立つことと期待しています。滑降レースの開催の難かしい状況の中で滑降に近いレースは選手も喜んでおり楽しみです。

当県の選手の回転の技術は一級品の選手が現れております。しかしプラスのスピードの技術が足りません。この練習に恵まれていない点もありますがスピードに絶えられる筋力パワーも足りません。このオフシーズンは是非筋力トレーニングに励んで下さい。

ポイントもようやく確立されました。来るシーズンはこのポイントを重視してスタート順を決定したいと思います。

競技上のルールも毎年変更されておりますので選手諸君もクラブに一冊程度のルールブックは置いて下さい。またこのオフには今選手が一番遅れていると思われるワックスの講習会も企画してみたいと思っております。

以前に比較してスキーブーツの進歩は大変なものです。使用する選手はこれにたよりすぎている面もありますので自分に合ったものを探す技術も大事だと思います。雑誌等での知識も大事にして下さい。

強化部一同も少ないスタッフで一生懸命頑張っております。種々の御意見がありますとは思いますがどうか来シーズンも今年以上の御協力をお願い申し上げます。

終りに今シーズンの各大会では一人のケガ人もでず終了致しました。紙上をもちまして皆さんの御支援に感謝申し上げます。

次号予告

○裏街道シリーズ

県連の行事が開催されるスキー場の帰り道、いかに混雑からまぬがれるかの方策を御教示下さい。投稿をお待ちしています。

① 戸隠スキー場からは?
② 八方尾根スキー場からは?
③ 車山高原の有料道路を……。
④ 上越国際スキー場の苗場対策

などの投稿をお待ちしています。

○ジュニアスキー用品交換欄

大きくなって使えなくなったジュニアスキー用品がある方、物置の中で眠っている方、また、これから子供にスキーを習わせようと準備している方など、県連の会員同志で融通しあってはいかがですか、スキー用品交換コーナーを開設する予定です。

○読者の声

SAKだよりを日頃読んでいる読者の方々の原稿を募集します。スキーに関する事や旅行のエピソードなど。スキー技術論や県連の歴史を知っている方々の投稿をお待ちしています。

＝送り先＝
〒221横浜市神奈川区台町16―1
ソレイユ台町407号室
神奈川県スキー連盟公報委員会

編集後記

スキーシーズンも、一応終りになり、広報委員会も今回の号発行のため、ようやく活動を始めたところ。いつもの通り原稿が集まらず苦労いたしましたが、どうにか発行に至りました。

次号の発行は、九月下旬を考えています。「予告欄」にもあるように、会員の各々の連絡交換の場としての「県連だより」にしていきたいと思っていますので、自慢話、失敗談など、なぐでもけっこうですので、どしどし投稿くださるようお願いいたします。

M・T